

壱岐市立一支国博物館

壱岐市立一支国博物館・長崎県埋蔵文化財センター
弥生時代の人々の暮らしが学べる

nagasaki topics

平成22年(2010)3月に開館した壱岐市立一支国博物館は「一支国」の王都である「原の辻遺跡」から発見された出土品の展示を中心に、古代船の復元や、古墳内部の再現など興味深い展示もあり、楽しみながら学べる博物館となっています。併せて、県の埋蔵文化財調査研究の中核機関である長崎県埋蔵文化財センターが併設され県下各地で発掘した最新の出土品も展示しています。



壱岐市立一支国博物館・長崎県埋蔵文化財センター



常設展示室の入口「魏志」倭人伝の世界

「一支国トピック」のコーナーでは、竪穴住居や高床倉庫の建築、米作り、魚採り(鯨も!?), 占い、交易にいたるシーンまで、165体のフィギアによって、当時の一支国の生活ぶりをいきいきと再現しています。



フィギアが過ごす弥生時代の生活は とても楽しそう!

高さ5メートルの「オープン収蔵庫」では、長崎県埋蔵文化財センターが所有する県内各地の発掘調査で出土した、土器・石器など数多くの出土品が収納され、ガラス越しに時代別・地域別など様々なテーマに沿った展示を見ることができます。



弥生時代の木造古代船(模型)

また、このコーナーでは島内の遺跡や古墳から発掘された貴重な品々も展示しています。フィギアが身に付けている服、手に持っている道具など、当時どのように使われていたか、一目で知ることができます。



「オープン収蔵庫」



「キッズこうがく研究所」

また大きな人面石ポストが目印の「キッズこうがく研究所」では、発掘の模擬体験や、土器のかけらを組み立てる「土器パズル」、「魏志倭人伝すごろく」など楽しい遊びがそろっており、楽しみながら歴史や考古学に親しめるコーナーとなっています。

この博物館で楽しく学んだ後は、弥生の原風景が残る原の辻遺跡に行き、復元建物を見学して弥生時代を体感しましょう。これで君は立派な「一支国」博士です。

(写真・記事提供:一支国博物館)